

2030年コミットメントの進捗状況

「サステナビリティビジョン2030」では、3つの重点領域にそれぞれ3つもしくは4つの取組みテーマを設定しており、それらに対して2030年目標(定量・定性)を掲げております。これらのコミットメント進捗状況については、毎年度、当サステナビリティレポートにおいてご報告させていただきます。なお、一部の目標につきまして、サステナビリティ委員会・分科会で検討した結果、年度途中で変更させていただくこととなりました。その詳細につきましては、下部※1に注釈記載しております。

重点領域:「健やかさ」を広げる		
日々の暮らしにおける身体と心の健やかさが、自然と広がっていくきっかけを作り続けます。《2021年度取組み状況:P9~11》		
取組みテーマ	2030年コミットメント	2021年度実績
健やかなくらしを良質に	「健やかさ」を広げるため、当社らしい企画商品を、2030年までに20点開発します。	2商品
より人生を長く健康に	人生100年時代に、老若男女が健康で充実した日々を長く送れるようにするためのサポートをします。	
こころを穏やかに	商品・サービスで、2030年までに1,000万人の健やかで心地よい暮らしを応援します。	72.2万人
お客様のために、私たちが健康に	お客様の健康に貢献するためにも、私たち一人ひとりが心身ともに健康であることを目指します。	定期健康診断受診率… 99.2% (2030年目標:100%) ストレスチェック受診率… 81.1% (2030年目標:100%) 運動習慣比率※… 28.5% (2030年目標:70%、1週間に30分以上の運動を2回) 喫煙習慣比率※… 18.0% (2030年目標:0%) ※2020年度実績を2021年度に集計

重点領域:「多様性」を応援する		
多様な価値観や立場などを踏まえ、女性をはじめ様々な方々のより良い暮らしを後押しします。《2021年度取組み状況:P12~14》		
取組みテーマ	2030年コミットメント	2021年度実績
自分らしさをすべての人に	すべての人が、自分らしく誇りをもって暮らせる世の中に向けて、一人ひとりのライフスタイルを整えるお手伝いをしていきます。	商品・サービスで、2030年までに1,000万人の多様で生きがいのある暮らしを応援します。
年齢を重ねる喜びを演出	それぞれの人が、自分らしく年齢を重ねていく足取りに、様々な喜びや楽しさを加える提案をしていきます。	多様性の応援につながる様々な情報を、積極的に発信します。
弱い立場にある方に寄り添う	女性や子ども、地域など人を取り巻く課題に向き合い、様々な活動に継続的に取り組めます。	継続的に様々な社会貢献活動を推進します。
組織をより多様に	多様性を尊重し、誰もがその能力や個性をより持続的に発揮できる組織を目指します。	ダイバーシティ&インクルージョンに関するアンケートでの「理解」回答率… 28.0% (「意味を含めて知っている」と回答) eラーニングの受講率… 100.0% (いずれも2030年目標:100%) 業務上の意思決定を行うキーポジションの女性社員比率を、2030年までに50%以上にします。

重点領域:「自然環境」を持続可能にする		
たのしく豊かなくらしのために、すべての事業活動において、自然環境保全につながる取組みを推進します。《2021年度取組み状況:P15~17》		
取組みテーマ	2030年コミットメント	2021年度実績
より自然環境にやさしくらしへ	日々の暮らしを、商品やサービスを通じて、自然環境にやさしく、持続可能にしていこうとします。	新商品において自然環境に配慮した商品採用比率が、毎年前年度を超え、2030年には50%にします(2020年対比)。
責任ある紙の使用	通販事業者として責任ある紙の使用により、環境への影響の低減を追求します。	「サーキュラーエコノミー」の実現につながるような、既存事業の見直しや新たな事業を検討します。
気候変動の緩和に向けて	世界共通の課題である、気候変動緩和のため「脱炭素」に向け、自社及びサプライチェーンにおける取組みを進めます。	お客様からのご注文1回あたりの紙媒体における紙使用効率を、2030年には50%向上させます(2019年対比)。*1 できる限り環境に配慮した用紙・印刷方法の採用を推進します。 温室効果ガス削減のため、CO2排出量(スコープ1・2及び3の一部)を2030年までに15%削減します(2020年対比)。*2

※1「責任ある紙の使用」の2030年コミットメントについて、紙媒体における紙使用効率をより的確に把握するため、お客様単位からご注文単位に目標を変更(2021年10月コーポレートサイトに掲出)。

※2「気候変動の緩和に向けて」の2030年コミットメントにおけるスコープ3の算定については、現状ではカテゴリ4「輸送・配送(上流)」、カテゴリ5「廃棄物」を対象。